



母屋は現在修復工事中です



高山社の歴史

高山社跡が構成資産の一角を占める「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、平成26年6月25日に世界文化遺産に登録され、今年で10周年を迎えました。

高山社跡は、かつては生産量が限られていた生糸の大量生産を実現した近代の絹産業に関する世界遺産です。日本発の生糸の大量生産技術は、それまで一部の人たちが手にできなかった絹を世界中に広め、生活や文化をさらに豊かなものに変えました。

この地は、高山社の創始者である高山長五郎の生誕の地でもあり、養蚕法「清温育」の開発を行っていた場所でもあります。長五郎により確立された清温育は、それまで「運の虫」と呼ばれたカイコを安定的に飼育し、全国どこでも

良質な繭を生産することを可能にする画期的なものでした。清温育の評判の高まりに伴い、教授を願う人たちが集まるようになると、長五郎はこの地で教育・伝習のための組織「養蚕改良高山組」を立ち上げ、集まった人たちがへの指導を行うようになります。後にこの組織が「高山社」へ発展し、高山社が輩出した人材の活躍と清温育の広まりは、繭の大量生産に大きく貢献したと考えられています。

志望者の増加から、高山社が藤岡町へ移転した後、この地は分教場として整備され、養蚕の教育が行われました。現在高山社跡では、母屋兼蚕室が保存修復中です。映像や解説で高山社の歴史や価値を知ることができます。

高山社の先駆者



高山長五郎
(1830年～1886年)



町田菊次郎
(1850年～1917年)

高山長五郎は、人々の生活を助けるため養蚕改良を志し、たとえ死んでも構いません。7年にわたる試行錯誤の末、「清温育」を確立し、養蚕教育機関・高山社の基礎を作りました。

高山の自宅が手狭になると、本拠を藤岡町に移し、さらなる研究や普及を計画しましたが、志半ばで死去しました。

町田菊次郎は、長五郎の遺志を継ぎ、高山社の2代目社長に就きました。清温育の研究や普及、指導を精力的に行い多くの功績を残し、高山社の盛期を現出させました。積極的な行動力と優れた判断力を持ち、学校創立とともに社員制度、授業員制度、分教場制度などの事業を整備拡充しました。

10周年を記念したイベントを開催！

特集展示
絹をめぐる展示のあゆみ

期日 7月7日(日)まで
時間 午前9時～午後5時
会場 藤岡歴史館

高山社跡
世界遺産登録10周年記念事業

期日 11月16日(土)・17日(日)